

雜  
波

特 別  
子 12  
3656  
30





412  
3656  
30

大長門第一二二二三二四二五二六二七二八二九三十



山も露てうゝ時をづく浪風起

なわくち 折是の宙くふ仕ハ

まの臣下也我三徳聖成候一

毎年と一義里仕んは度ハ所候

成就志年毎亦亦も来久ハ

喉々教る下向仕ん 長久候や

久々も長閑さのさなきに乃づく

各行上











ふくもとなる梅花を法に説く

ふもとに法ありは心なきは

くうくう ウレカレ う神大乃我に花

本に引盛ハおかけきとも花乃

中よも ウレ 物なきハ梅花を花の兒

井のへ ウレ 可上梅能必所ノ

國に所ハ多けしハ六義能物乃

ろく舟小も難波能梅くう讀き

たき ウレ 法代もひらき一榮花と

つひ ウレ あまののき花のうま

つひ ウレ 兎小も角もも法國乃

朝詠乃難波能よなをえり

に花をふまのとの法能

あたるしき法能 ウレ 久ま



類波乃梅於事、必来や、んと  
有ぬ家、い、魚なわ、く、る、む、ま、う、般  
然ハ、奇、ふ、も、能、波、は、ふ、笑、や、ら、能  
花、を、終、り、と、い、ハ、と、道、と、笑、や、ら、能  
花、に、ま、み、あ、て、し、よ、め、家、奇、に、心、ハ  
い、り、な、る、る、り、う、祈、あ、う、は、つ、を  
う、人、奇、に、く、ろ、ろ、言、業、ハ、あ、う、い、れ

大、事、類、波、乃、は、子、ハ、皇、子、な、る、う、  
い、ま、う、こ、位、よ、は、し、き、お、り、母、ハ、冬、笑  
梅、乃、花、の、こ、と、  
類、波、乃、君、に、位、よ、は、り、り、新、ひ、  
時、ハ、  
天、下、お、け、る、を、忘、ろ、う、め、き、  
と、ハ、我、道、と、さ、く、や、ら、能、花、に、











深うしそハ時乃糸と浪もあく  
ひろきほ惠葉波山形陰しわも  
志げきほ陰ハ大君乃國乃建ハ  
おもたも葉ハきりふは國の  
秋波乃梅乃必しおふ旬ひも  
四才よあまのく一花平のれハ  
天下ろあまな世や第代乃なを

上古事紀

海をうめくさきくま第代乃  
表にちあづくさうんひさしき  
難波乃昔候うおもしろき  
くまあしおみ難波乃多子  
一輝おししもふ唱書乃表に  
表乃時をううせんしき  
浪乃旅乃神ハかく心乃花乃必



舞樂をううー新ふの葉 我ハ  
六ハヤ此梅結衣逢く花乃情  
<sup>上地</sup>一人能老人ハ 望まう花可  
類波津ヨ 笑やう花と詠  
法ハ位を逢め申さー雨海國結  
<sup>下</sup>五仁が魂也 心さる花もあよ  
<sup>下</sup>たふふさもさくしわ能あふ

うそける乃 夢結まのの虫お葉  
懃めト 舞ーや下外ー 花竹ハ  
ちあ乃さーさー 待たまへ  
<sup>及上</sup>旅ハ いひー 花結 以花ハ 葉もわ  
其家とつん 竹枝花リー 望  
ひくく 家ハ 所も 西乃 海ヨ 向ハ  
類波のるお 葉乃 月ゆきも 以 望



うゝに浪よ家の舞楽ハ面白や  
愛りしき男し新ふあよ是ハ  
歎波乃備よ身を寝てひらけ  
世に能恵ミをうけふけを  
所くや娘の神矣なり我ハ又  
百濟國よわは國よわら君成  
あめめ國をさるまにといひ

お人なり昔仁徳乃内宇みは  
信代のかしらのうをうけ  
治まは信代乃榮花をあらも  
う花入り匂ひ又ハひらけ  
しもの葉乃跡歎波乃事り  
法なめ遊みたをまきこけ  
舞楽面白や梅のえよきぬは



上  
下  
鼓を聴きて 打鳴りて人も  
あけまの君の代は 掛志鼓も  
可きお聴しなり 覚ゆる難波乃  
鐘も聴き うれしうか  
流るる 入江乃松風も  
昔の業を 何をやらも晚ひ乃

上  
下  
鐘鼓音も 難波乃音もあけぬ  
は代なりあうこや 登面南の  
音もや 何乃調子ふくもわて  
長き持れまを けりるるを  
流るる花を けりるるを  
秋風楽ハハハハハ 秋乃りき  
も流るる浪を けりるるを







